

JCに入会して、今思うこと

有限会社 岸佛光堂 岸 紘史



岡山青年会議所に入会してもうすぐ1年になります。半年間の研修では、同期と苦楽を共にし、かけがえのない仲間ができました。委員会に配属されてからも毎日が充実しています。

私はJCに入会する前から、仕事と会社に対して真剣であるつもりでした。しかし、JC内で当然とされるマナーや組織運営を目の当たりにすることで、自分の仕事への取り組み方や会社組織の在り方が、甘いものであると実感しました。JCに入らずに家族経営の会社で仕事をしているだけでは、気付かなかったでしょう。

正直に申し上げると、入会するまでは、JCのことを遊興が多すぎる団体と考えていました。OBである父からも早く入らなくてもよいと言われ、35歳になるまで入会しませんでした。しかし、今では「なぜもっと早く入会しなかったのだろう」と思っています。残された時間を大切に、1つでも多くのことを吸収し、成長の糧にしていきたいです。

株式会社 サピックス 佐々木 和明



私は2014年後期に岡山青年会議所に入会いたしました。入会当初は訳も分からずに参加していました。しかし、同期や研修スタッフに叱咤激励されながら事業を行っていくうちに、JC活動の楽しさや達成感を実感し、自ら積極的に行動するようになりました。仕事を一生懸命にすると嬉しいことや辛いことなど色々な体験が得られますが、同じことがJC活動でも言えます。JCは仕事と同様に、自分を成長させてくれます。

私は、岡山出身ではないサラリーマンです。そんな私がJCに入会することで、それまではビジネスでも滅多にお会いする機会がなかった方々と、親しく話をするできるようになりました。その結果、仕事だけでは得られなかった様々な発見がありました。これは私の大きな宝物ですし、将来の自分の仕事にも繋がってくるでしょう。これからも、多くの事に参加をして、色々な人と繋がっていきたくです。

Junior Chamber International Okayama

公益社団法人岡山青年会議所



入会のご案内

私たち公益社団法人岡山青年会議所は、20歳から40歳までの次世代を担う若きリーダーが集う組織です。

地域社会の発展のため、次世代のまちづくりのために青年会議所の活動を通じ、幅広い交流範囲の様々な人との「出会い」や「学び」、「成長」を繰り返します。

地域社会や組織において、より優れたリーダーとなるための切磋琢磨を重ね、より豊かなまちづくりと人づくりを目指します。

皆様もぜひ私たちと一緒に岡山青年会議所で、新たな可能性にチャレンジしましょう。

年齢・資格

満20歳以上39歳以下
(H6.1.1生～S50.1.1生)の
品格のある男女

募集期間

随時募集しております。詳しくは、
下記事務局までお電話にてご連絡
ください。

入会に際して必要なものです

- 入会申込書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 履歴書
- 入会誓約書(推薦者に署名と捺印をもらうこと)
- 入会承諾書
- 作文 題目「岡山JC入会にあたって」※万年筆またはボールペンで、楷書で記入のこと ※700字以上
- 会社謄本 ※資格のみで正業に従事する場合は、資格者証の写し
- 本人の住民票
- 写真 ※縦4cm横3cm 4枚(うち一枚は履歴書に貼付) ※白黒写真ネクタイ着用・スピード写真不可

〈事務局〉

TEL: 086-223-0938 FAX: 086-225-0500 E-mail: info@jci-okayama.com
〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

2015年度 岡山JCホームページ・facebook

岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業紹介や会員拡大情報など随時更新しております。お気軽にホームページをご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.okjc.org/>



facebook

<https://www.facebook.com/okjc.org>



2015年度 広報誌「暖流」 Vol.2

■発行日/平成27年4月 日

■発行/公益社団法人岡山青年会議所

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15 岡山商工会議所ビル6F

TEL: 086-223-0938 FAX: 086-225-0500

URL <http://www.okjc.org/2015/>

E-mail info@jci-okayama.com

■発行責任者/公益社団法人岡山青年会議所

拡大広報委員会 委員長 野上 昌範

岸本 恭秀 笹山 勇二 本多 信晴 藤井 大温

井戸 啓太 勝谷 満 河野 初仁 末長 一範

三宅 寛 柚木 久生 吉村 忠道

■印

刷/株式会社岡文館印刷所

★次号は6月発行予定です。



環境に配慮し、古紙パルプ配合率100%の再生紙と植物性大豆油インキを使用しています。

暖流

JCI Junior Chamber International Japan
公益社団法人 岡山青年会議所

vol.02
OKAYAMA
JC REPORT
2015.APR



【Pickup!】

- キッズビジネスパーク
- 創立65周年 記念事業

【理事長対談】

岡山県知事

伊原木 隆太





岡山県知事対談

岡山県知事 伊原木 隆太×第65代理事長 久松 朋史

久松理事長:本日はお忙しい中、対談のお時間をいただきありがとうございます。よろしく申し上げます。

我々岡山青年会議所は、“真歩～ありたい未来を創る為に”というスローガンを掲げて本年度の活動に取り組んでいるのですが、これは「あるべき未来」ということではなく「ありたい未来」に向けて自分達がどうしたいかということを含め主体性を持って考えていこうという意味で作らせていただいたものです。今、知事がお考えになっている、これからの岡山のこうありたいという思いは何でしょうか？良い所も悪い所も含めてお伺いしたいと思います。

伊原木知事:私は“教育と産業”が重要だと言ってきました。去年の岡山JCとの対談の中でも思いのたけを随分と話すことが出来たのですが、私自身の岡山に対する思いは、我々にとって故郷であり大事な地域である岡山によい変化を起こしたいということです。

戦後の日本全体で言えば戦争で、家や町が焼かれてしまい、これからどうやって国民を飢えさせない様にしていくかという点での農業政策や、外貨を得る事に力を入れてきました。日本はエネルギーをほとんど自給できない国ですから、鉄鉱石・石炭・石油を輸入する為に外貨を得る必要があります。そして外貨を得る為に軽工業を戦前のように復活させ、重工業やこれまで手の出せなかったハイテクなどを必死で頑張っていくうちに憧れの先進国入りが出来ました。それによって、貧しかった暮らしも高等教育が受けられるようになってきました。誰もが「頑張れば報われる」という時代になり、一億総中流社会としての一体感を保ちつつ、発展途上国から上手く先進国に移行してきました。しかし、いざそうなってみたところ戸惑いや傲慢さが出てきました。そしてバブル崩壊から10年、20年経ちアメリカやヨーロッパでは力強く改革しているにも係わらず、日本はGDPも減少し、逆にイギリスは倍増しています。同じ先進国でもこんなにも違いが出ているのです。先進国になった今、必要な改革を怠り今の居心地の良さを優先し、軋轢を避けることにより、今のリスクを取らず知らず知らずに将来のリスクを抱え込んでしまっているのではないのでしょうか。私自身政治・行政が上手くいっているのであればわざわざリスクを取ってこのような世界には入りません。皆さんも自身の会社だけを思えば

わざわざJCには入られていないと思います。やはり我々はもう少しずつ自身の会社や家族の利益以外のところでリーダーシップを発揮する必要があると思います。

久松理事長:日本全体でもそうだと思いますが、我々の企業を考えても若者がだんだん減っていているという現状を考えると少子高齢化など、地方に対する課題が大きい様に思います。地方創生と云われて東京一極集中を解消しようとの話は出ますが、地方は地方で魅力を創っていくべきではないかと思うのです。知事はどの様に岡山県の魅力をアピールしていこうとお考えですか？

伊原木知事:岡山県は何もしなくてももうまくいくほど恵まれている訳でもありませんが、どうやってもうまくいかない地域ではありません。自分自身あまりに可能性がない所には飛び込めませんが、昔から岡山はポテンシャルが高いと言われていましたし、岡山県を良くすることで日本を良くするきっかけになれば良いと思っています。

天災の少なさ、教育機関の充実など活かせるものは多いと思います。資源の有効活用により県民にもっと豊かに頑張ら甲斐、働き甲斐のある県にしたいと考えています。十分にその土壌は岡山にはあるのですから。

そして私自身も岡山県を肅々と運営するだけではなく、是非経営者として資源を有効活用して県民をもっと豊かにしたいと思っています。

久松理事長:今やっている事は、10年、20年後結果や芽が出てくる事もあるのではないかと考えています。知事も今、教育県の再生を一生懸命されていることと思います。勉強もそうですが、夢や希望を持って挑戦するという事が出来にくい環境ではないかと感じています。大人がしっかり見守り子供たちを世界に飛び立たせるという面で知事はどうお考えでしょうか？

伊原木知事:岡山県は機会あふれた場所であって欲しいと思っています。そして岡山からどんとんと全国世界へと飛び立って行って活躍をして欲しいと思います。その為にも今の岡山ではクッションが軟らかすぎるのです。

これは日本全国でいえる事かも知れませんが、高度経済成長期は仕事や勉強など頑張った人が報われました。ですが今は頑張っても失敗をしようとしてと徹底的に叩かれてしまいます。そんな時代を見ているからか出世に興味

を持たない人たちが増えてきているのではと思います。仕事でもへとへとになるまで頑張る人、最低限解雇されない程度に頑張る人がいても収入面ではそれほど差が出てはいないのです。頑張った人はきちんと報われてよかったと思える未来を目指したいものです。

久松理事長:私は岡山県が1番魅力ある県でなければいけないと思っていますが、知事はどうお考えですか？

伊原木知事:話がそれるかもしれませんが、私は、岡山県は関西関東など大きなところに巻き込まれているわけではなくきちんと独立している県であると思っています。その為大きなものに引きずられることなく、我々の力で改革がし易いのではないかと考えているのです。一番になる可能性も充分にあるのです。

久松理事長:今現在、県北の一部などでは過疎化が進んでいますが、人口を増やす為にはどうしたら良いのでしょうか？

伊原木知事:今回、おかも創生総合戦略の骨子素案をつくりましたが、やれる事は何でもやろうと思っています。人口は社会増減と自然増減の両方がありますが、私は今までは、社会増減に関しては他の県との取り合いの繰り返しであると考え、70～80%の力しか入れていませんでしたが、この自然豊かな恵まれた岡山という地であればこそ、さらに出生率を上げていけるのではないかと思います、これからは100%の力でアピールしていこうと考えています。



久松理事長:やはり他の地域からお客様として多くの方に来ていただく事は岡山県にとっても良いことだと思うのですが、知事は今ある観光資源に加え、新たに何かを創ろうというお考えはありますか？

伊原木知事:私の考え方の基本は無いものを創るのではなく、有るものを活かすということです。岡山県に無いものを創ろうとしても、多額のお金がかかりますし、失敗したら本当に打撃を受けることになります。それよりは、今ある素敵なものに少しずつ磨きをかけた方が、効率が良いと考えます。私が就任した時、観光関連予算は、約3.6億円でしたが、H26年度は倍の約7億円、H27年度はさらに3倍の約22億円に増やしました。岡山県の観光のアウトプットは、旅館やホテルの売り上げなどで、約1400億円あります。

今、外国人観光客が増えています。日本に来る外国人観光客の訪問先を47都道府県別で見ると岡山は0.3%しかシェアがありません。ほとんど来ていないということです。外国人観光客の半分近くが来ている、京都・大阪から新幹線でわずか1時間の場所にあるにもかかわらずわずか0.3%ですから、すぐもったいないです。いかにその外国人に岡山を訪れてもらうかが課題です。

久松理事長:話が変わりますが、今、安部総理も企業の雇用面で、女性の登用に力を入れています。昨日、地方裁判所で話を聞きましたが、女性の執行官が増えている、男性が減っているとのこと。一般企業では、出産や育児の面で女性が活躍する環境を整えるのが難しい状況です。岡山県では企業で女性が活躍する為の制度づくりや支援策などをどのようにお考えでしょうか？

伊原木知事:この対談のわずか1時間前に、この部屋で「おかも子育て応援宣言企業」の表彰をしたところです。国や地域としては学校を卒業するまで、男性にも女性にも平等に投資しています。しかし、女性は家庭に入ってしまうと、教育投資をしたにも関わらず社会全体としては活用できていないということになります。みんなで知恵を出し合って、教育投資を社会全体で還元できるようにすることが大事です。そもそも生まれた時に男性じゃなかったというだけで人生に制約がかかるのはフェアじゃないと思います。いろんな仕事に男性向きにつくられていますが、それを女性にも適用できるようにすることが、我々の責任だと思っています。

久松理事長:ノルウェーでは、上場企業の役員の性別がどちらかが40%を切ると、会社が強制解散になるという法律があるとのことでした。そのおかげで、女性の就業率が上がり、男性がしっかりと育児休暇をとるようになったということです。岡山県独自で何かそういったことが出来ればいいなと思いますか。



伊原木知事:それぞれの会社が様々な工夫をしていただき、従業員にとっても会社にとっても良い方法を見つけて5年後、10年後に良いシステムをつくってもらいたいです。先程の様に、女性の役員を何%以上にしないと会社が解散になるというのは、弊害を指摘されることも多いアメリカのアファーマティブ・アクションを思い出します。私はそれに対して少し警戒をしています。そうではなく、みんなで頑張っている人を応援していくという社会がいいと思います。

久松理事長:岡山青年会議所は今年で65年目を迎え、これから様々な取り組みを行っていかうと考えていますが、知事は岡山青年会議所にどのような役割を期待されていますか？

伊原木知事:アダム・スミスが主張した資本主義の素晴らしいところは適切に設定されたルールを守っていると、自分の利益の為に頑張った結果、社会全体が良くなるということです。ただ、それだけだと地域全体の問題点が改善されない事もあります。その時に、自分の会社の利益に直結しないけれども、自分の時間や資産の一部を公益の為に使おうというのはとても大事なことだと思います。もちろん、皆さんも法人税という形で利益が出たものは強制的に公益の為に提供していますが、それは、自分の思うようには配分されません。しかし、自分で持ち出すものについては、自分の価値観や良心が反映されるので、とても貴重です。それを個人でやるのではなく、経営者が集まって相談し勉強しながら、進めていくのはすごい力になると思います。街の為に頑張るという組織があるというのには素晴らしいと思います。自分たちの利益の為に存在する組織は多いですが、みんなのため・公益のために頑張るという組織は余り多くなく、意義があることです。ぜひ、頑張ってください。

事業告知

キッズビジネスパーク in 岡山
～わくわく未来の仕事探し～

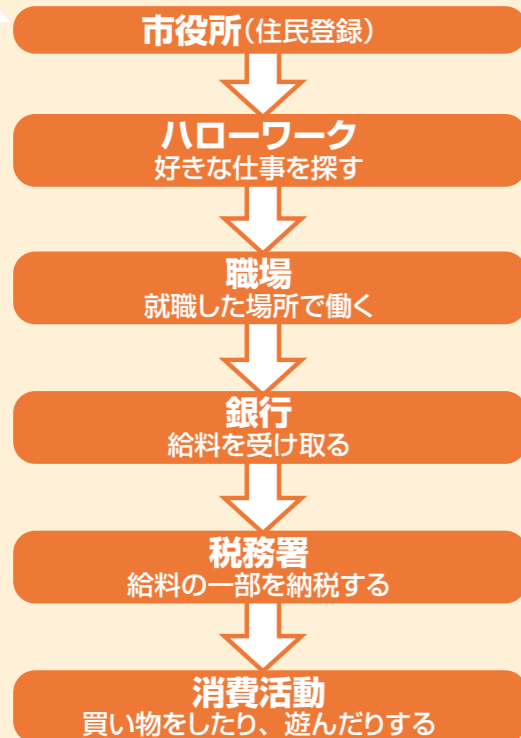
- 共催 (公財)ふれあい公社 岡山県備前県民局
- 開催日時 平成27年8月29日(土)
- 開催場所 岡山ふれあいセンター 岡山市中区桑野
- 参加対象 小学生3年生～6年生
- 参加人数 400名

【内容・目的】

小学校3年生～6年生の児童を対象として、2014年度に引き続き、2015年度版「キッズビジネスパーク in 岡山～わくわく未来の仕事探し～」(平たく言えば、岡山版キッズパーク)の実施を予定しています。本事業では、子供たちが学校や家庭では教わることのできない職業体験を通し、「子供たちのまち」の中で、ともに協力し仮想社会を構築して活動していくことで、社会は皆が共存することで成り立っていることを学んで頂きます。また、さまざまな職業体験を通じて、将来なりたい職業を見つけたり、今後より具体的に将来なりたい職業に思いを馳せ、その夢に向かって進んでいくきっかけとすることを目的とします。

子供と学生と企業が一緒に事業を作ることを通じて、繋がりを強め、地元企業の魅力、良さを再認識することができ、地元への定着や地元企業への就職促進を進め、まちの活性化を目標とします。

※保護者、一般参加者も疑似通貨に換金して、買い物などの消費活動をすることができます。



事業告知

創立65周年 記念事業

7月4日(土)14時30分、岡山市民会館で、岡山青年会議所創立65周年記念講演会「夢をつかもう!～宇宙から未来へのメッセージ」と題し、宇宙飛行士の毛利衛さんに一般市民に向けてのご講演をいただきます。

毛利衛さんは、1992年に日本人で初めて宇宙飛行士としてスペースシャトル・エンデバーに搭乗され、「宇宙から国境は見えない」という名言を残した宇宙飛行士です。2000年にも再度宇宙飛行を行い、その後も深海や南極といった様々な局面での科学実験に取り組んでおられます。

毛利さんには、大きな目標を持ってその実現に向けて努力され、ついには日本人として初めてのスペースシャトル搭乗という形で大きな成果を実現された経験をもととして、小中学生世代にもわかりやすく、かつ将来の夢を持つモチベーションにつながるご講演をいただく予定です。65周年記念事業ということで、参加無料とさせていただいておりますので、お誘いあわせの上、多数のご参加をお待ちしております。

真にありたいまち・おかやま創生委員会 副委員長 難波 秀明

それは僕らの知らない
とっても大きな世界の話。

大きな大きな宇宙の話に耳を傾け、
夢を持つことの大切さ、楽しさ…
未来への大きな希望の光を
みんなて学んでみませんか?

65th anniversary commemorative business
岡山青年会議所
65周年記念事業

夢をつかもう!
～未来へ飛び立つために～

日時 平成27年7月4日(土) 14:30～16:00 (開場 14:00)

場所 岡山市民会館

講師 毛利衛
Mamoru Mori

〒700-0823
岡山県岡山市北区丸の内2丁目1番1号
TEL:086-223-2165 FAX:086-223-2169

事業報告

特別会員・現役会員合同新年賀詞交換会 1月14日 岡山国際ホテル

創立65周年を迎える公益社団法人岡山青年会議所の最初の事業といたしまして、岡山国際ホテルにて、特別会員・現役会員合同新年賀詞交換会を開催いたしました。

来賓の大森岡山市長、桐野岡山県産業労働部長、公益社団法人日本青年会議所青木副会頭をはじめ、県内外より、多くの各地青年会議所の皆様、特別会員の皆様にご参加をいただきました。

会場では、久松理事長の年頭挨拶をはじめ、本年度の執行部理事や新会員の紹介をさせていただくとともに、特別会員の皆様や、県内外の各地青年会議所の方々と、賀詞を交換させていただきました。

また、新年賀詞交換会を通じ、創立65周年を迎える岡山青年会議所が、ありたい未来を創るためにどの様に活動していくのか等の様々な意見交換を行い、現役会員にとっても、大変有意義な双方向の交流が行われました。

2015年度、久松理事長のもとメンバー一同邁進して参ります。本年度も変わらず、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

会員拡大特別委員会 副委員長 木村 治貴



京都会議 1月25日 京都国際会議場他

今年度の日本青年会議所は20歳から40歳までの、全国約700の地域の青年で約37,000名のメンバーにて構成されております。

日本青年会議所の本年度最初の事業である京都会議2015では、柴田剛介会頭(金沢JC)の打ち出した、文化と文明が生み出す「底知れぬ力」による日本復興という基本理念の元、全国各地の青年会議所よりメンバーが京都の地に結集し、メンバー達は本年度の活動に対する意欲を高める事が出来ました。

又、本年度の岡山青年会議所からは、日本青年会議所本会へ9名、同中国地区協議会へ3名、又、同岡山ブロック協議会へ10名の出向者を輩出し、活動を進めてまいります。岡山JCLOMナイトでは、特別会員の諸先輩方との交流を深めると共に、出向者の方々の激励し出向への自覚を促す事となりました。特別会員の皆様には御礼を申し上げますと共に、今後のご活躍に期待をしたいと思います。

広報・渉外委員会 副委員長 岸本 恭秀



事業報告

歴代理事長会議 2月5日 荒手茶寮

2月5日に、荒手茶寮にて2015年度歴代理事長会議が開催されました。

岡山JCの歴史と伝統を築き上げてこられた歴代理事長の諸先輩方をお迎えし、厳粛な空気で開会いたしました。会が進むにつれ次第に和やかになり、様々なお話を聞かせていただくことができました。また、歴代理事長からご指導や激励をいただき、執行部の皆様も真剣な表情でお話を伺っておられました。また、会の途中では、執行部の皆様より岡山青年会議所が今年度取り組む事業等をご紹介させていただきました。

我々総務委員会といたしましても、今年度の事業が成功するように、円滑なLOM運営を行っていく覚悟を改めてさせていただくことができました。

当日は、設営等で不備な点があったかと思いますが、ご協力をいただき大変ありがとうございました。

総務委員会 副委員長 佐伯 和哉



ブロ長公式訪問 3月26日 駅前みよしの

3月26日には、駅前みよしの例会場にて、3月第二例会(岡山ブロック長公式訪問例会)が開催されました。

田中康信会長をはじめとする岡山ブロック役員団の方々と共に、前半は通常の例会を厳粛な雰囲気で行い、田中会長からは、人が成長するには、本を読む事、海外に出で俯瞰的に日本を見る事等の重要性についてお話をされました。後半は懇親会という事で、終始和やかな雰囲気の中、役員の皆様方にはご登壇を頂きアトラクションにも参加をして頂き、より一層の懇親を深める事が出来ました。今後もこの事業が未永く続く事を祈念したいと思います。お越しいただいたブロック役員団の皆様、又、ご協力頂きました方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

広報・渉外委員会 副委員長 本多 晴信

